

経営者が語る
「経営の転機」
No.146

海に関する調査・施工のスペシャリスト
確かな技術力へ、お客様から高い評価をいただく

コヌモ海洋株式会社（代表取締役）**金丸市郎**



海の「安心・安全・環境」を守るため、知恵と技術を注ぐ 海洋測量調査や探査、海洋土木工事、潜水作業など お客様と社会の役に立つプロフェッショナル業務を展開

42歳にして一念発起、 コスモ海洋、立ち上げ

大学を卒業して海洋磁気探査の会社を立ち上げるといふ知人の決意に共鳴し、参加します。

文系出身の私ではありますが、直面した技術サービス系の仕事内容に対して、なぜかワクワク感を覚えるように。肌に合う仕事とは、このことを指すのだと感じたものです。以来、ずっと関連の仕事に携わっていくようになっていきます。

その後、その会社を退職し、海洋土木、潜水作業を専門的に手がける会社へと移ります。ここでもまた、ワクワク感をもって仕事に向き合う日々を過ごします。この会社にも同じく10年近く在籍。都合2つの会社での勤務歴を通じて、さまざまな人と出会い、ご縁ができました。これが後々

かけがえのない財産になっていきます。

平成4年を迎え、高まる気持ちを抑えきることができずに、独立。九州最北端のこの門司港の地で自身の会社、コスモ海洋を興します。周りからは「なぜ、バブル崩壊不況真っ只中のこの時期での起業なのか？」といった声も聞こえてきましたが、逆に、この時期だからこそ！という思いが自身の内にあつたように思います。42歳のときでした。

当初は、探査業務中心に会社を運営。海洋土木主体の工事会社大手、いわゆる「マリコン」（マリコンコストラクター）からの受注が順調に入ってきます。その後、海洋測量調査分野や海洋土木工事分野なども手がけるように。マリコンとの取引に加え、国（国土交通省）の最先機関や県、市など公共との直取引もしだいに増えて

いくなど、経営は軌道に乗っていきます。

6つの分野へ、当社ならではの 技術サービス展開

ここで、設立来30有余年を経て確立してきた業務内容、すなわち技術サービス分野について紹介しましょう。大きくは、次の6つの分野に及びます。

まずは「測量」です。海の水深は堆砂（砂だまり）などさまざまな要因によつて変動するため、そのまま放置しておくとも船が通れなくなってしまう恐れが生じてきます。測深機を用いて海底地形測量を行い、得られたデータを読み取ることで、対処すべきか否かを判断することができます。次に「探査」。港湾工事の施工に際しては、事前に磁気探査機を用いて

危険物の有無を確かめなければなりません。異常が認められれば、除去作業へと移ります。港湾工事の安全性を確保するための重要な作業工程です。

続いて「工事」。消波ブロックや棧橋など、港湾に関わる土木構造物の製作・設置をはじめ、港内の浚渫（しゅんせつ）した護岸整備の仕事にもお応えします。

そして「潜水」です。海の構造物は、自然災害の影響や腐食によつて劣化が進みます。そのまま放っておくと崩壊の危険もあるため、潜水士が実



際に潜って現在の状態をチェック。港湾施設の機能、能力を維持していくための大切な作業です。

さらに「環境」です。港湾工事計画にあたっては近年、時代を反映して「脱炭素」・「環境共生機能保全」の視点が重視されるようになってきました。基本的な環境調査はもとより、漁礁・漁場や洋上風力発電施設の建設に伴う調査にも対応します。

そして6つ目に「提案」です。港湾や空港、漁港などにおける各種土木構造物について、計画段階からご相



談ください。それぞれの現場状況ならびにコストパフォーマンスなども踏まえて提案。設計・施工管理・施工方法・メンテナンスまでの一切にお応えします。

以上のように、海の安全・安心に關するトータルな技術サービスをお届けする、私どもコスモ海洋。国内でも稀有な存在として、お客様からご支持をいただいております。

人材・技術力、機材力でソリューション提供

CS(お客様満足度)の追求を経営の根幹に据える、私どもコスモ海洋。その具現化のために何よりも大切にしてきたのが人材・技術力、ならびに機材力です。

技術士、土木施工管理技士、海上工事施工管理技術者、測量士、水路測量技術者、港湾海洋調査士、港湾潜水技術士など、海をこよなく愛し、海の安全を心から願う専門技術者たちを揃え、チームを組んで案件に向き合います。その前提として、人材の確保と育成、技術力の向上・維持に全社をあげて取り組んでいます。

マルチビームシステムの導入。船の



げん 舷にソナーを艦装して海底に向けて音波を扇状に発射し、反射して返ってきた音波をとらえ、可視化することとで一気に広範囲の海底地形を把握できる「マルチビーム」。上空からさまざまな角度で画像をとらえ、安全かつ効率的に全体状況を把握できる「ドローン」。さらには、藻場や生物の生育環境の確認、漁場の点検などに役立つ「水中ドローン」など。最新の機器機材をいち早く導入し、測量調査業務に活用。お客様へ、より高精度でのソリューションをお届けします。

またCS追求の一環として、サービス拠点網の整備・拡充にも努めてきました。本社(北九州市門司区)に加えて、山陽小野田営業所(山口県山陽小野田市)・旧小野田営業所を改称)、関東支店(横浜市南区)・旧東京営業所を移転・改称)、福岡支店(福岡市中央区)、さらには沖縄営業所(沖縄県浦添市)も。全国5拠点から、お客様と現場に寄り添った技術サービスの提供を心がけています。

九州管内に限らず、全国どこへでもつかがいます。場合によっては、海外での業務にも対応可能です。「海の数だけ、舞台(現場)がある」



私ども「コスモ海洋」は「i-Construction」に大賛成の立場に立ち、取り組みを進めています。具体的な一例として、業界に先駆けて現場投入済みの「UAV搭載型グリーンレーザー測量システム」があります。

緑色のレーザー光を用いて陸上および水中の地形を読み取り、高精度かつ見やすい点群データとして表示。小型軽量、高性能INSを装備したドローン測量システムですから、船舶が入れない海域や被災地などの浅海部測深にも威力を発揮します。作業の効率化により、人材不足や工期短縮といった課題の解決にも役立ちます。まさにICT化の威力、といったところでしょつか。

こうしたi-Constructionの推進にあたって、社内で先頭に立ち、全員を引っ張ってくれているのが専務取締役の金丸哲士、私の息子です。指導力も、経営センスも持ち合わせているように感じます。

令和3年には創立30周年を迎え、同5年には新本社ビルも竣工。大きなイベントを続けて無事にこなしてこられたことですし、そろそろ代を譲るべき頃合いかと考えています。いや、譲ることにします(笑)。

i-Construction 積極推進へ

のスローガンどおり、活躍の場を広げつつ、今日へと至っています。

私どもの業界にも昨今、ICT技術導入による業務革新の波がやってきました。国土交通省では、「i-Construction」を銘打ったプロジェクトを立ち上げ、あらゆる建設プロセスを対象に、ICT化のいっその推進を提唱しています。

※「i-Construction」：国土交通省が進めている建設現場にICTを活用する取り組み



金丸市郎 かなまる いちろう

昭和25年生まれ。福岡県京都郡苅田町出身。地元大学卒業。海洋磁気探査を専門とする会社に入社し、約10年間勤務。海洋土木を専門とする会社で約10年間勤務を経て、平成4年、満を持して独立。北九州市門司区内にコスモ海洋有限公司(同9年、株式会社へ改組)を興し、代表取締役に就任

代表者 代表取締役 金丸市郎
 設立 平成4年6月1日
 事業内容 測量、探査、海洋土木工事、
 海洋環境調査、建設コンサルタント
 所在地 〒801-0863
 福岡県北九州市門司区栄町11-9
 電話 093-332-2460
 URL <https://www.cosmo-ocean.jp/>
 資本金 4,800万円